

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組

「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～高知県～

課題とその分析

【課題】 英語(外国語活動)指導力の向上及び担当教員の英語力の向上。

【分析】 言語活動を中心とした指導方法や適切な評価方法についての周知が不十分であるため、学校現場での理解や実践が十分に進んでいない。求められる相応の英語力を有する担当教員の育成が不十分である。

課題解決のための具体的な対策

- (1) 外部専門機関及び英語教育推進リーダー等指導的立場にある教員と連携した効果的な研修の実施。(2) 指導主事の学校訪問による授業改善。
(3) 英語4技能評価テスト集の活用を通じた適切な評価の理解。(4) 担当教員の英語力の向上と外部検定試験受験機会の拡大を目指す講座等の実施。

取組の内容

- (1) 外部講師、英語教育推進リーダー、指導主事等による指導方法等の研修、協議会等
- ① 中学校・高等学校英語教育推進研修 平成27～31年度までの悉皆研修(年4日)。平成30年度までの受講者 (中)148名、(高)143名。
 - ② 小学校外国語活動・外国語研修 平成27～31年度までに各校1名以上の教員が受講(年5日、内1日は先進校における公開授業研究会への参加)。平成30年度までの受講者181名。
 - ③ 英語教員エンパワーメントセミナー 小中高連携、指導法理解 ④ 高知県ALT指導力等向上研修 英語教育推進リーダーとALTとのモデル授業
- (2) 指導主事による学校支援訪問及び各地域に配置した英語指導教員等(13小学校・3中学校)による域内小学校巡回訪問
- (3) 英語4技能評価テスト集の作成、配付、活用の促進(中学校)。教育課程研究協議会におけるCAN-DOリスト、ルーブリック等の周知(高等学校)
- (4) 教員の英語力向上等
- ① 英語力ブラッシュアップ講座(4日間):〈中学校〉58名(H28),53名(H29),38名(H30),〈高等学校〉24名(H30のみ) 講習及びTOEIC受験
 - ② 英語教育推進研修:外部試験実施(中学校 英検IBA 高等学校 TOEIC)
 - ③ 小学校外国語活動・外国語研修:自宅や職場で学習できるe-Learning研修 英語力向上セミナー:小学校リーダー教員対象(全3回)

成果と課題

【成果】

- (1)、(2)について、研修で学んだことを授業に取り入れるなど、教員の授業改善及び意識の向上が見られた。
(4)について、求められる英語力を有する担当教員の割合が増加した。

【課題】

- (3)について、評価、特にパフォーマンステストのルーブリックの設定等についての理解が十分でない。
(4)について、研修等ではTOEIC L&Rの2技能試験しか行っておらず、英語4技能の向上は見取れていない。



成果の波及と周知

- ・小教員・中英語担当教員を悉皆対象にした公開授業研究会で、授業と関連付けたパフォーマンステストとルーブリックについての研究成果等を普及。
- ・指導主事や英語指導教員等の定期的な学校訪問による授業改善に向けた継続的な指導。

課題解決のための手立て

- ・引き続き、英語教育推進研修、教育課程研究協議会及び拠点校における公開授業等で学習指導要領について周知するとともに、テストや評価についての良い実践例を紹介し、求められる指導・評価方法について理解を深めさせる。
- ・学校訪問等を通して、英語4技能評価テスト集の活用促進を図る。
- ・英語教育推進研修において、教員自身の英語力、特にスピーキング・ライティング力の向上に資する講座を実施する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～土佐市立宇佐小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【現状の課題】 学級担任とALTとの役割分担が明確でなく、効果的なチームティーチングが行われていない。
教員が英語に対して苦手意識を感じている。

【課題解決のための手立て】 英語担当教員を配置し「授業スタンダード」の作成・活用と公開授業の実施によるPDCAサイクルの構築
担任と英語担当教員とが連携し、授業後の振り返りの充実と次時の授業計画の作成

具体の取組の内容

- 英語担当教員による「授業スタンダード」と、様々な場面で用いるクラスルームイングリッシュの提案→全教員による共通理解(※資料参照)
- 3・4年、5・6年の共通振り返りシートの活用(右図)
- 「授業スタンダード」を基にした学級担任とALT、または英語担当教員による授業を定期的に公開→「授業スタンダード」の検証・改善。
- 学級担任、ALT、英語担当教員の3者による授業の打ち合わせの充実
- 長期休業中の全教員を対象とした新学習指導要領の理解、授業で使える指導法についての研修の充実
- 英語担当教員による先進校視察と研修報告

日付	今日のめあて	振り返り	できたかチェック 色をぬろう!
5/27	好きな色を伝えよう	色を伝えてみんな上手になってきてうれしです。	☹ ☹ ●
5/27	好きかどうか、たずねたり答えたりしよう	あまりいい答えがなかった。	☹ ☹ ●
5/27	友達のの様子を見て、好きかどうか手探しよう	ほくほく嬉しかった。好きかどうかわからない。	☹ ☹ ●
5/27	好きなものを書いて、自分紹介しよう	今日は英語で話さなくていい。	☹ ☹ ☹

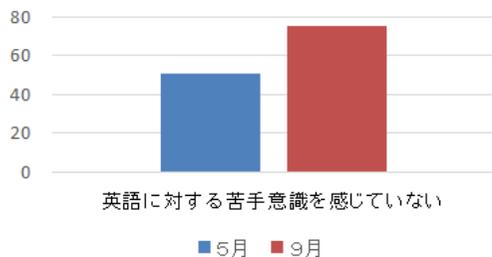
日付	今日のめあて	Today's Key phrase	振り返り
6月1日	時刻の言い方や時刻の言い方をかこう	What time is it?	時刻の言い方や時刻の言い方をかこう
6月1日	起床の中の動きの言い方をかこう	What time do you get up?	起床の中の動きの言い方をかこう
6月1日	友達の生活の時間をかこう	I get up at 6:00.	友達の生活の時間をかこう
6月1日	日本と世界の時刻のちがいをかこう	I go to bed at 10:50.	日本と世界の時刻のちがいをかこう

左が3・4年生用の振り返りシート、右が5・6年生用の振り返りシート。5・6年生用は、毎時間「書くこと」に慣れ親しむため、本時で聞いたたり言ったりした単語や表現を4線の上に書き写している。

成果①

○教員の意識調査において、「英語に対する苦手意識を感じていない」の項目で、肯定的評価が50%から75%に改善された。

教員意識調査



成果②

- 授業スタンダードを基本に、どの学年でも言語活動を中心とした授業を行うことができる。
- 振り返りシートの様式を統一したことで、5・6年生が足並みをそろえて「書く」活動に取り組んでいる。
- 学級担任と英語担当教員とで相談しながら授業計画を立てることで、新学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりができてきている。
- 英語担当教員がいない場合でも学級担任とALTで打ち合わせをし、担任が主となって授業をコーディネートできるようになってきた。

今後の課題・方向性

【課題】

- ALTに授業の詳細な部分まで伝えることが難しい。
- ALTを授業のどの場面でもどの程度活用すればよいか、具体的なイメージがまだ持っていない教員もいる。

【方向性】

- 学級担任とALTとの役割分担に特化した校内研修を行う。
- 打ち合わせで使える用語を校内研修等で確認し、活用できるようにしていく。
- どの学年も年間1回は外国語活動の授業を公開するなど、指導力向上に向けて学校全体で取り組んでいく。

	<p>㉑ Today's task is -----.</p> <p>㉒ Let's practice.</p> <p>㉓ Repeat after (ALT) sensei.</p> <p>㉔ Make pairs.</p> <p>㉕ Now practice for 3 minutes. Start.</p> <p>㉖ Stop. Switch roles.</p> <p>㉗ Get your pencils ready.</p> <p>㉘ Write your names.</p> <p>㉙ Gather the cards. (the papers).</p> <p>㉚ Pass me.</p> <p>㉛ Bring them to me.</p>	<p>㉑ 今日の課題は-----。</p> <p>㉒ 練習しましょう。</p> <p>㉓ (ALT)先生の後について言ってください。</p> <p>㉔ ペアになって。</p> <p>㉕ 3分練習します。始め。</p> <p>㉖ やめ。交代してください。</p> <p>㉗ 鉛筆を準備して。</p> <p>㉘ 名前を書いて。</p> <p>㉙ カード(用紙)を集めて。</p> <p>㉚ 私に渡して。</p> <p>㉛ 私に持ってきて。</p>
(5. Story time)	㉜ It's story time.	㉜ お話の時間です。
6. Reflection	<p>㉝ Let's reflect on the lesson.</p> <p>㉞ Any comments?</p> <p>㉟ Raise your hands.</p>	<p>㉝ 振り返りをしましょう。</p> <p>㉞ 意見がありますか?</p> <p>㉟ 手を挙げて。</p>
7. ALT's comment	<p>㊱ (ALT) sensei comment, please.</p> <p>㊲ Thank you.</p>	<p>㊱ (ALT)先生コメントをお願いします。</p> <p>㊲ ありがとう。</p>
8. Farewell	<p>㊳ That's all for today.</p> <p>㊴ Stand up please.</p> <p>㊵ English leader(s), please.</p> <p>☆Let's finish!</p> <p>★Let's finish!</p>	<p>㊳ これで終わりです。</p> <p>㊴ 立ちましょう。</p> <p>㊵ 日直さんお願いします。</p> <p>☆終わりをしましょう。</p> <p>★終わりをしましょう。</p>

○児童に使わせたい Classroom English

①じゃんけん	Rock, scissors, paper, one two three!
②(挙手のときに)私にさせて!	Let me try!
③(作業などが)できた!	I did it!
④(配布物を配るとき)どうぞ。	Here you are.
⑤もう一度お願いします。	One more time, please.
⑥ありがとう。	Thank you.

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～大豊町立大豊町中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【課題】①領域を統合した言語活動への取組が不十分であり、書く力にも課題がある。

→・聞いたり話したりした内容について、簡単な語句や文を用いて書くことができる 18.2% (中3アンケート結果)

・ライティング総合正答率 65.8% (H29 GTEC結果)

②話すことに対する積極性に課題があり、話す力についても弱い。

→・自分から積極的に誰にでも英語で話しかけることができる 66.7% (中3アンケート結果)

・スピーキング総合正答率49.0% (H29 GTEC結果)

【課題解決のための手立て】・領域統合型の言語活動を通じた資質・能力ベースの授業づくりへ転換する。・授業内外において、英語を使う機会を増やす。

具体の取組の内容

○授業改善…資質・能力ベースの授業づくりへ

・帯学習の工夫…①県教委作成単語集「これ単」を活用した語彙学習 ②チャット&レポート:1つのテーマについてペアで話したことを、レポート

・資質・能力ベースの授業への転換…単元で付きたい力に向かい領域統合型の言語活動を繰り返し行い資質・能力を高める

(例)テーマについて聞く→読む(資料など)→情報を整理し、考えたことを伝え合う(質問・コメント)→再構築して再度伝え合う→整理して書く

・小学校での学びを生かしたゴール設定(郷土紹介・思い出)

・他教科等との連携(社・理・家庭科や総合的な学習の時間等)や学校行事との連携(修学旅行/職場体験/オーストラリア研修/体育祭)

○授業外におけるコミュニケーションの場面設定

・豪ヘリベリー校との交流授業/オーストラリア研修(ホームステイ)/インターナショナルデイの開催

○学校全体での取組

・GOIKEN検定(練習・語彙検定を隔週で行う)・帰りの会での5分間音読・ドリカム(Dreams come true)ノートでの自己表現作文指導

成果①

「書くこと」(中3)

◎意識の向上(アンケート結果:5月→10月)

・聞いたり話したりした内容について、簡単な語句や文を用いて書くことができる
18.2%→100%

◎書く力の向上(GTEC結果)

	H30	H29
ライティング総合	83.0%	65.8%
意見が書けている	100%	83.3%
理由が書けている	90.9%	75.0%

(追跡データ)

成果②

「話すこと」(中3)

◎意識の向上(アンケート結果:5月→10月)

・自分から積極的に誰にでも英語で話しかけることができる
66.7%→83.3%

◎話す力の向上(GTEC結果)

	大豊町中 H30	全国 H30	大豊町中 H29
スピーキング総合	68.5%		49.0%
質問を聞いて応答する	93.2%	75.4%	43.3%
ストーリーを英語で話す	54.6%	56.1%	47.9%
自分の意見を述べる	81.8%	69.0%	66.7%

(追跡データ)

今後の課題・方向性

【課題】

・「書くこと」「話すこと」においては一定の成果が見られたが、「聞くこと」「読むこと」において課題が見られる。

・まとまった英文を聞いたり読んだりして、主旨や必要な情報を捉えることに課題がある。

【方向性】

・帯活動にALTによるsmall talkやWPM、聞いたことや読んだことを基に話す活動などを取り入れ、聞くこと、読むことを日常化させる。

・内容を図式化したり時系列でまとめたりするツールを活用させるなど、聞き方、読み方の指導をする。

・聞いたり読んだりしたことについて表現するという領域統合型の授業を実施する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～高知県立高知東高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【現状の課題】 単語テストを実施しているが、語彙がなかなか定着せず、特に書いて表現することが難しい。

【課題解決のための手立て】 発音指導を行った上で、単語テストを行うことにより音声と文字の一致をはかる。また話すことと書くことを結びつけるためにターゲットセンテンスを使った帯活動を行う。

具体の取組の内容

・単語テスト

校内で単語テストを10回実施している。また、100語程度を長期休暇中の課題とし、課題テストに出題している。1年間で合計13回のテストを実施し、生徒たちが定期的に単語に触れ、覚える機会を確保している。

・ターゲットセンテンス

教科書で取り扱うターゲットセンテンスを毎時間繰り返し扱い、それらを使って(口頭)作文指導を行い、自己表現につなげている。

・スピーキングテスト

英語表現 I では、各定期考査ごとにスピーキングテストを実施している。

・CAN-DOリスト

CAN-DOリストを見直し、その内容を教員間で共有し指導と評価に取り入れている。

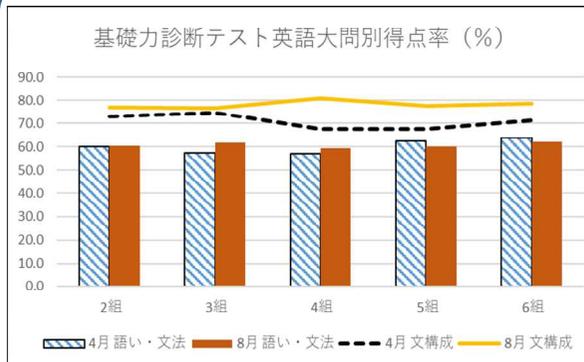
・外部試験の活用

英検IBAやベネッセ基礎力診断テストなどの結果を生徒にはフィードバックし、教員間では共有し、今までの指導や今後の指導の参考にしている。

成果①

- ・生徒アンケートより、「書くことができる」と答えた生徒が、4月 40% ⇒ 12月 65% まで上昇した。
- ・授業で扱った表現を使って書けることを喜んでいる生徒と、自分の日本語レベルと同じように表現ができないことに葛藤し始めている生徒がいる。苦手意識はあっても、白紙で何も書かないという生徒はいなくなった。
- ・授業で扱った表現を用いて、他人に伝わるような作文ができる生徒が50%、時制や語彙に誤りはあるが作文をしている生徒が40%、書こうとはしているが文にはなっていない生徒が10%である。
- ・自分についてや、興味があることについては50語以上のまとまった文章を書けるようになりつつある。

成果②



語彙・文法では目立った変化は見られないが、文構成は少し伸びていることがわかる。

今後の課題・方向性

【課題】

- ・入学までの学習の空白時間が多い生徒へのサポートをいつ、だれが、どのようにするのかを明確にする必要がある。
- ・4技能を伸ばすために、基本的な文法の理解と定着が必要であるが、演習に割く時間の確保が難しい。
- ・総合学科の特性と教員が多忙なため、定期的に教科会を持つことが難しく、話し合う機会が確保できない。

【方向性】

- ・入学後しばらくして、英語に向き合おうとしなくなる生徒に学習に取り組ませる仕掛けや工夫を考える。
- ・語彙や表現を定着させるために、場面の中で使わせるように3年間の計画的な指導を行う。
- ・家庭学習ができるように、教科書本文、特にターゲットセンテンスは音読できるように指導をする。